

2025年度 訪問科学実験の募集について

2025年度実施分の応募受付を開始致しました。年度内全期間における訪問科学実験の実施について応募を随時受け付けておりますので宜しくお願い致します。必ずご一読の上、応募下さいますようお願い申し上げます。

以下の条件を了承していただける訪問先（学校・地域等）を募集させていただきます。

1. 訪問科学実験の活動の趣旨を理解し、賛同していただけること。
2. 授業、もしくは学校行事等の一環として開催していただける学校、「科学展」「理科作品展」「科学館」等の教育的な行事、地域の子供会等の行事であること。ただし、金銭を徴収するイベント等はお断りさせていただきます。
3. 大学からの移動時間が片道1時間程度以内であること。（大学休業期間中の実施、離島・山村等遠隔地での実施は別途考慮・検討させていただきます。）
4. バス等の人員・物品運搬手段が実施場所近くまで乗り入れ可能で、駐車場が確保できること（消耗品費・交通費等の負担は原則として不要です）。
5. 万一の事故に対応するため、参加者全員が保険に加入していること。
6. 実施にあたって作成・使用した資料などを提供していただけること。
7. 実施後のアンケート調査や今後の活動にご協力いただけること。

訪問科学実験の実施を希望される学校、地域行事等の担当者の方は、「2025年度応募用紙」をダウンロードし、必要事項をご記入していただいた上、「愛知教育大学 科学・ものづくり教育推進センター」までe-mailで申し込みをお願いします。実施のための消耗品費、謝金等は不要です。応募用紙を受け付け次第、数日以内に応募用紙受領確認のメールを返信させていただきます。確認メールが届かない場合は、ご面倒をおかけしますが再度ご連絡をお願い致します。

応募用紙送付メールアドレス：waku2@m.auecc.aichi-edu.ac.jp

応募用紙に書かれている内容（実施希望日・時間、実施形式、参加者の学年・人数など）を訪問科学実験運営会議で総合的に検討し、訪問先を順次決定させていただきます。決定は1週間から1ヵ月後になりますので、あらかじめご了承をお願いいたします。実施の可否を決定次第、こちらから連絡をさせていただきます。

2025年度につきましては、年間30回程度、原則として水曜日の午後は、小・中学校での授業の一環としての実施を優先させていただきます。実施希望日の重複があった場合や、大学の講義、ガイダンス、行事などにより学生が参加できない場合は、こちらから別の日程の案を提示させていただき、変更をお願いする場合や、お断りする場合がございます。また、土・日・祝日・長期休業期間中の実施についても申込みを受け付けますが、水曜日の実践を優先させていただくことや、休業日の実施依頼が集中することから、お断りさせていただく可能性が高いことをあらかじめご了承ください。

＜教材（他の実験教材も開発中）＞

- | | | |
|--------------|----------------|-----------------|
| ○ アニメーションの世界 | ○ スライム | ○ びっくりカイロ |
| ○ アルコール鉄砲 | ○ 静電気 | ○ ペーパークロマトグラフィー |
| ○ 渦のひみつ | ○ 大気圧 | ○ ペンのいらない紙 |
| ○ 液体窒素 | ○ ダイラタンシー | ○ 放射線ってなあに？ |
| ○ 音の秘密 | ○ 種のぼうけん | ○ プラバンをつくろう |
| ○ オレンジの皮の秘密 | ○ 小さな音の世界 | ○ ホバークラフト |
| ○ 風のかがく | ○ スーパーボールロケット | ○ それゆけ！パラシュート |
| ○ 空気砲で遊ぼう | ○ 飛ぶ工作 | ○ 葉脈のしおり |
| ○ 地震にまけるな！ | ○ 虹の世界をのぞいてみよう | ○ ろうそく |
| ○ シャボン玉 | ○ にぼしの解剖 | ○ 顕微鏡 |
| ○ 人エイクラをつくろう | ○ 熱気球 | ○ 偏光板 |
| ○ 不思議な金魚 | ○ 光の不思議 | ○ スーパーボール |

など

＜訪問科学実験の活動形式＞

イベント形式…体育館、理科室、家庭科室、図工室、運動場などで、実験をブース形式で行います。1つのブースには学生が2～4名程度つきます。子どもたちが5～20名のグループになり、興味のあるブースを適宜まわり、いろいろな実験を体験したり学習したりする形式です。ブースによって、ものづくりやたべものもあります。1ブースの所要時間は、15～20分です。訪問科学実験の実施形式の主流となっています。実施規模にもよりますが、学生10～60名ほど参加し、30～200名程度の子供たちに対応が可能です。

講座形式……………理科室、一般教室、家庭科室、図工室などの部屋に分かれ、それぞれの教室で実験テーマを設定します。実験・指導を学生が講師として行い、数名の学生が補助講師として参加し、子どもたちは通常の授業のような感覚で体験・学習する形式です。1回の講座は20～30分程度で、イベント形式に比べ、少ない学生でより多くの子どもたちへの対応が可能です。

＜一般的なタイムスケジュール（例）＞

- ～12:50 大学授業終了・参加者の確認・教材の運搬
- 12:50～ 参加者と引率教員が大学出発
- ～13:40 実践場所到着・実験準備
- 14:00～ 開会式（あいさつ、諸連絡など）
- 14:10～ 実践（80分間程度）
- 15:30～ 閉会式（あいさつなど）・片付け次第、実践場所を出発
- ～17:00 大学到着・片付け・反省会など

休業日の場合は、午前中から実施が可能です。